

令和8年5月1日時点

入学試験における出題意図について（2025年度純真学園大学大学院 保健医療学研究科 保健衛生学専攻 臨床医工学分野）

■小論文

本学大学院のアドミッション・ポリシーでは、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」に則り、生命の尊厳を基盤とした豊かな人間性を育み、保健・医療・福祉の分野において社会の要請に応え得る高度専門職業人の養成を目指している。とりわけ保健衛生学専攻 臨床医工学分野では、「全人的医療をもとに多職種連携によるチーム医療の中で指導的立場を志す人」「医療機器の開発や教育に携わることを希望する人」「革新的医療技術の創出に関心のある人」を受け入れ方針として掲げている。小論文は、これらの資質を、論理的な思考力・表現力とあわせて総合的に評価することを意図して出題した。

設問は二題から一題を選択し、八〇〇字程度で論述させる形式とした。第一問は、患者を中心とした多職種による医療連携を取り上げ、その必要性を説明したうえで、医療連携における臨床工学技士の役割や、他職種のスタッフとどのように連携して医療を進めるべきかを論じさせるものである。第二問は、医療現場のニーズを出発点とした医療機器開発・医療技術創出の取組である医工連携を取り上げ、その必要性を説明したうえで、医工連携における臨床工学技士の役割と、それをどのように推進すべきかを論じさせるものである。いずれも、臨床工学技士が高度専門職業人として果たすべき役割を、チーム医療および医療技術の創出という観点から具体的に構想できるかを問うものである。

評価にあたっては、設問の趣旨を的確に読み取り、連携の必要性とそのなかでの臨床工学技士の役割を明確に位置づけたうえで、自らの主張を根拠を挙げて論理的・客観的に述べられているかを重視した。全人的医療を支える多職種連携のなかで指導的立場を担い、革新的な医療技術の創出に貢献しようとする問題意識が示されているかは、本分野の育成目標に沿う評価の観点である。あわせて、序論・本論・結論の構成、専門的知識の活用、日本語表現の正確さ、規定の字数についても評価の対象とした。

なお、試験時間は一二〇分とし、主題の選択、構想及び記述に十分取り組める時間を確保した。